



肥料コストの削減に取り組み 堅実な農業経営を展開

小松菜経営 北野町 稻吉 隆二さん(28歳)

民間企業からUターン就農

パセリ農家だった両親の背中を見て育った稲吉隆二さん。他分野を経験したいとの思いから、4年間、民間企業に勤めましたが、職業として農業を選択する意志が揺らぐことはありませんでした。

就農2年目に経営規模を拡大し、両親は引き続きパセリ、隆二さんは新たに小松菜の作付けを開始。地域の先輩農家のアドバイスを受けながら、20アールのハウスで、ほぼ一人で小松菜を生産しています。

土壌分析は自分の手で

平成20年の肥料価格の高騰をきっかけに、隆二さんが所属する地域の青年農業者の組織「北野町4Hクラブ」では、肥料コストの削減に取り組みました。

これまで、小松菜などの施設野菜類の栽培における施肥料を決定するためには、頻繁に県普及指導センターに土を持ち込んで土壌分析を行う必要があり、大きな負担となっていたため、現場で安価で簡単に分析する方法として「メルコクアント試験紙」による分析方法を導入。その結果、夏の施肥量が従来のおよそ半分で済むなど、大幅な肥料コスト削減に成功しました。

堅実な農業経営を

「サラリーマン時代より休みは少ないが、努力すれば返ってくるどころが農業の魅力。昨年3月に誕生した子どもにも、昼、夜は離乳食をあげている。」と笑顔で話す育メンの隆二さん。

今後は、家族でできる範囲での規模拡大による堅実な農業経営を目指します。

